

令和6年2月20日

茅ヶ崎市長 佐藤 光 様

茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画協議会  
会長 松葉口 玲子

茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗管理について（答申）

令和5年8月25日付け5茅多第70号で諮問のありました、茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗管理について、次のとおり答申します。

答 申

「茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画」は、前計画である「第2次ちがさき男女共同参画推進プラン」の最終評価において計画の進捗状況を振り返り、依然として残る固定的性別役割分担意識や無意識の思い込みなどに起因する様々な課題に対する継続的な対応をしつつ、新型コロナウイルス感染症の拡大による生活様式や個人の価値観の変化に加え、様々な社会情勢の変化を踏まえた男女共同参画及びジェンダー平等に係る社会の動向を反映することを基本的な方針として令和5年4月に策定されました。

世界経済フォーラムが発表した「ジェンダーギャップ指数2023」では、日本は146か国中125位で、残念ながら過去最低の順位となりました。また、茅ヶ崎市において令和4年度に実施した「ジェンダー平等社会に関するアンケート調査」では、社会通念、慣習、しきたりなどにおいて、男女が平等だと思ふ人の割合は7.6%という結果であり、この数値も年々減少傾向となっています。

平成11年に制定された「男女共同参画社会基本法」の前文には、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現は、緊要な課題となっている」とされています。茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画協議会として、国による男女共同参画に係る取組や、神奈川県や茅ヶ崎市が男女共

同参画社会の実現に向けて多様な分野にわたる啓発事業等を実施していることに一定の評価はしているものの、現在においても男女共同参画が遅々として進まない分野が存在しています。

このような状況にあることから、茅ヶ崎市において、更なる男女共同参画の推進に取り組むとともに、本計画に新たに取り入れたSDGsの17のゴールのひとつであるジェンダー平等社会の実現を目指して積極的に取り組んでいくことを期待します。

令和5年度は、計画策定の初年度にあたり、本協議会では、本計画における関連事務事業の選定及びその進捗管理の方法について審議を行いました。

本計画に位置付けられた5つの基本目標と12の目標に基づく様々な関連事務事業の取組については、各目標の達成に向けて計画的な事業の実施をお願いいたします。その各課における実施状況については、今回検討した「茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗管理における関連事務事業の評価シート」を活用し、令和6年度以降に本協議会において事業評価をしていきます。

なお、毎年度実施している「ジェンダー平等社会に関するアンケート調査」の活用については、本計画の指標に位置付けた目標値に対する実績値を把握することにとどまらず、その集計結果を多角的な視点で分析し、有効的に活用していくことにより、本計画が目指している目標に少しでも早く近づくための気づきから創意工夫に繋げ、それぞれの目標に基づく様々な関連事務事業に反映していくことで着実に推進していかれるよう要望いたします。

最後に、本協議会において検討した意見等が、男女共同参画、ジェンダー平等社会の実現を目的とした本計画に基づく施策の展開に活かされることを期待いたします。

以上